

令和元年度アーバンデザインスクール後期第4回実績報告書

(1) 開催日時

令和2年2月7日（金） 18時30分～20時

参加人数：11名

(2) テーマ

小さな空間から都市をプランニングする

「永続性を前提としない建物とその先の時間も引き受ける（神戸市+善光寺門前）」

(3) 話題提供者

佐久間康富（和歌山大学システム工学部准教授）

穂苅耕介（豊橋技術科学大学特任助教）

(4) 話題の概要

- 2019年に出版された『小さな空間から都市をプランニングする』（学芸出版社）の著者のうち8名によるシリーズ講義として、武田史朗氏（UDCBK 副センター長・立命館大学理工学部教授）にコーディネート頂く。
- 第4回は、佐久間氏と穂苅氏に「永続性を前提としない建物とその先の時間も引き受ける（神戸市+善光寺門前）」をテーマに話題提供頂いた。
- 小さな空間の価値を大きな都市につなげる10の方法のうち、下記の2つの方法を主に取り上げる。
 - 小さな単位を連帯
 - テンポラリーな実践
- 小さな渦と大きな渦
 - 大きなインフラをつくるなど一つの大きな渦をつくるケースと、小さな経済の渦が相互に影響し合い地域の価値を向上させていくケースがある。
 - 今回のシリーズ講義で取り扱うのは、小さな渦に該当する事例である。
- まちなか防災空地事業（神戸市）
 - 2011年3月に策定された「密集市街地再生方針」に位置付けられている地区が対象で、具体的には東垂水地区、長田南部地区、兵庫北部地区、灘北西部



地区にまちなか防災空地の位置づけがある。土地所有者、まちづくり協議会等、神戸市の三者で協定を結んで実現。

- 土地所有者、まちづくり協議会等、神戸市の三者で協定を結んで実現する事業。
→神戸市は、無償で土地を借り受ける。
→まちづくり協議会等は、その土地を「まちなか防災空地」として整備及び維持管理する。整備に当たっては神戸市から100万円以下の補助がある（2019年度から上限150万円）。
→土地所有者は、固定資産税、都市計画税が非課税となる。神戸市は、無償で土地を借り受けている。
- 事業期間が3～5年以上とされている点が画期的である。短い期間に区切ることで、意思決定を促進することができる。
- 施設の整備ではなく、地域の小さな空間の整備を重ねることで、「状態として」都市環境上の必要な機能を発現させるあり方。
- 小さなイベントが催されたり、机や椅子を置いて居場所として活用されたりしている事例もある。

● 集落丸山（丹波篠山市）の事例

- 集落の人たちでNPO法人集落丸山を設立して運営しており、事業期間を10年間としている。10年間という期限が定められていたことで決断することが可能となった。
- 空き家2棟を再生し、宿泊施設として運営している。
- まちなみだけでなく、担い手やなりわいもあわせて再生されている。
- 施設を点在させ、まち全体を再生させていく考え方で、エリア全体の価値を向上させる「分散型開発」の事例と言える。

● 小さな渦と大きな渦の関係（まちづくりとはなにか？）

- まちづくりではなく、自分ごととして自己実現していたら、それがまちづくりにつながっていくケースがある。（小さな渦）
- コミュニティー・ベネフィットの存在。地域の価値向上の必要性。（大きな渦）
- 他者がいるメリットを享受し合いながら進めるべきもの。

● 善光寺門前（長野市）の事例

- エリアリノベーションのトリガーとなったKANEMATSUの存在。
→「古い建物が持つまちと共有した時間を、まちの魅力として再評価すること、そして人とまちをつなぎながら、自ら古い建物で日々を営むこと」を実践するプロジェクト拠点。
→建築士、デザイナーなど5社7名で構成する有限責任事業組合ボンクラが、

所有者から借り受けて、改修しながら使う建物。

→イベントスペースやテナント入居など。

→建物の役割を引き継ぐために、自主的な活動を含めお祭りや地域の行事に積極的に参加したり、地域と関わりを生むプロジェクトを実行。

- なぜ KANEMATSU がトリガーとなったのかといえば、建物を未来に向かって引き受けていこうとする態度を、表明しながら進めたからと言える。
- さまざまな空き家の活用事例（テナントの変遷例）
 - ・骨董屋→クリーニング店→旅行会社の事務所/倉庫→ゲストハウス
 - ・下宿/魚屋→古本と喫茶ととんかつの店
 - ・甘納豆店→そば店→倉庫→カフェ など
- 保存の対象になるような建築的価値のある建物ではなく、ごく普通の建物。
- 外観はほぼそのまま利用されており、そこに建物が存在した時間の長さや、かつての営みが想像できる。
- 空き家にはかかわりしろがある。「もっとこんな風に使ってみたらまちはもっと面白くなるんじゃないか」などと妄想してみる余地。
- 開かれた良いビジョンは「共感」を生み、価値観を共有できる開かれた空間ができる。

(5) 質疑応答

- 建て替え等によるまちの新陳代謝と、リノベーションと、この2つをどう折り合いをつけていけばよいのか？
 - 例えば筋交いを入れたり、鉄で補強したりしている事例は多い。人々の暮らしの場として次の時代に引き継いでいくということであれば、ありのままを生かしつつ中を変えていくのはリノベーションの面白いところではないか。(佐久間氏)
 - 長野の場合は、メインストリートは新陳代謝が激しいが、一步入ったところはむしろ完璧なものをつくるよりは、磨けば光るようなものの価値をもう一度引き出すような目線がある。(穂苅氏)
 - 南草津のまちの今の景観を次の時代に送り届ける時、今あるものをあるがまま次の時代に送るのが良いのかどうかは、正直なところ分からない。UDCBKのすぐ近くの交差点は、ロードサイド・マンション・旧集落が一つの視野に入り、色々な時代のレイヤーが重なっている。次の時代につなげる時、マンションはどんなリノベーションになるのか、建て替えしかないのかとか、東海道のまち並みはそのまま更新する方がいいのか、新しいものが入ってくる方が生活感のあるまち並みになるのか、議論する余地があると思う。(佐久間氏)
- ボンクラの解散は、どのような解散だったのか？

- 以前は時間があつたので地域でいろいろな取り組みをすることができていたが、メンバーの本業が忙しくなつたので解散した。今 KANEMATSU はメンバーの一人が引き継いで運営している。(穂苺氏)

- 湖岸に人の流れをつくるには？

- 家賃が安かったり、環境に魅力があつたりするので、人の流れがないところは、積極的に可能性を見出せる場合もある。また、人の流れを生み出さないといけないのかというのも、ケースバイケースである。

(6) まとめ

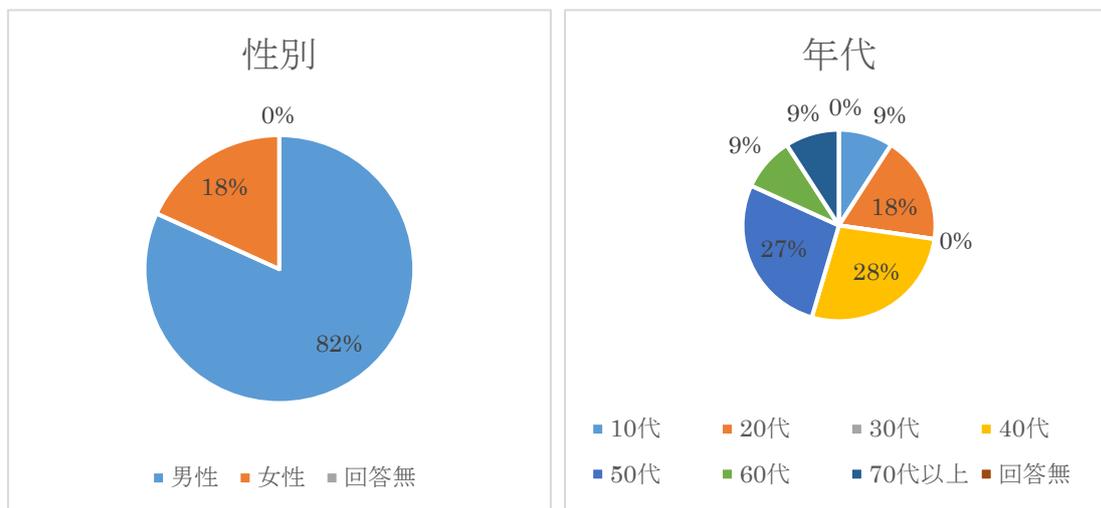
まちなか防災空地や丹波篠山の事例から事業期間を短期間に定めた空地や空き家の活用事例を学び、KANEMATSU の事例からは建物の歴史と未来を大切にしたい空き家リノベーション事例について学んだ。「時間」の設定の仕方や捉え方によって、現状から紡がれる価値の可能性は大きく異なることが分かった。

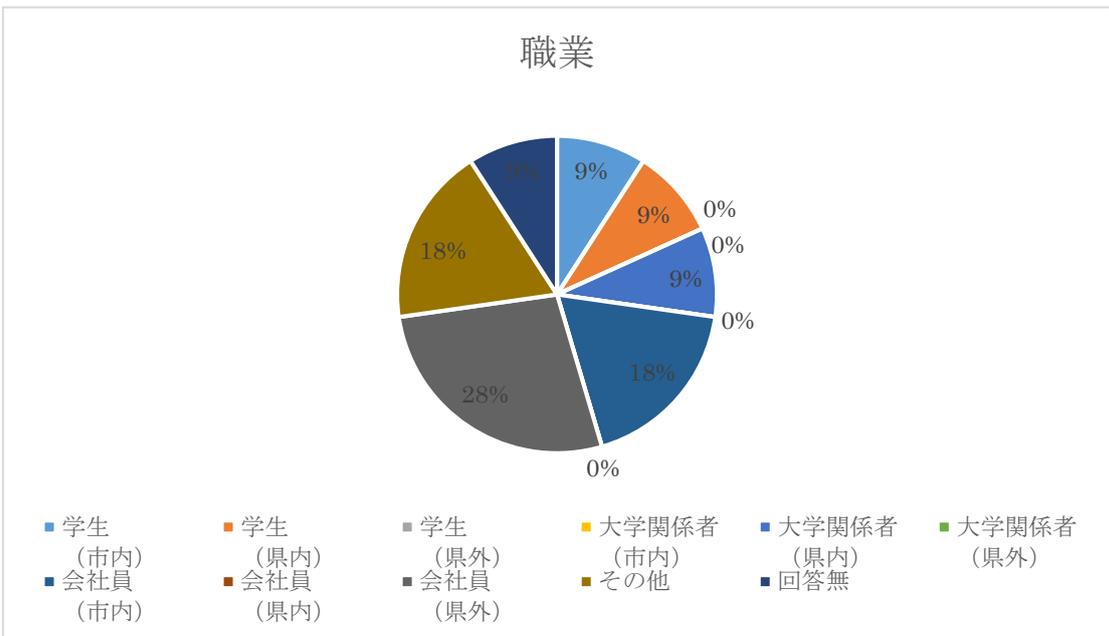
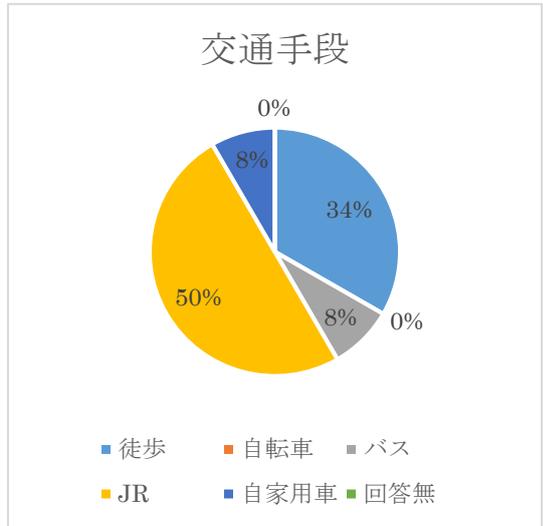
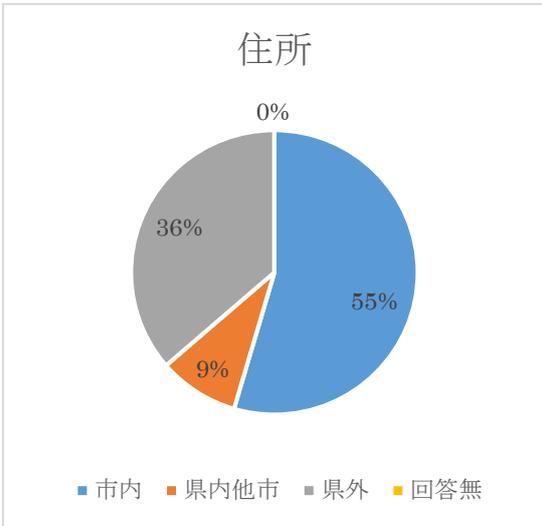
さまざまな角度からまちのあり方を考える際、今回の参加者それぞれが事業期間や歴史や未来などについて、一つの視点として検討してみることが期待される。

(7) アンケートまとめ

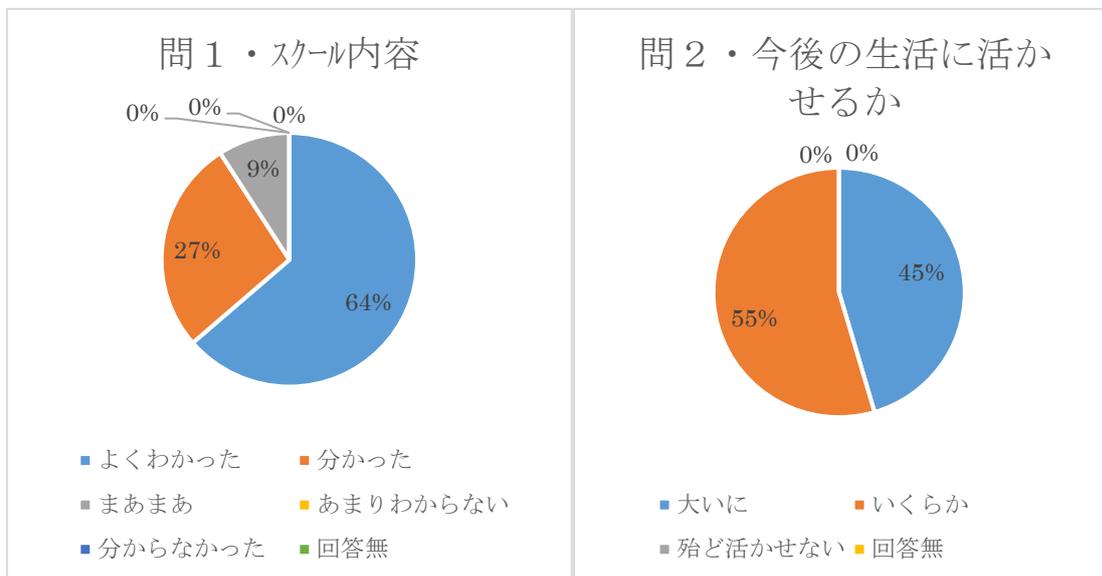
① 参加者属性

参加者 11 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 11 名、回答率は 100% だった。





② 内容について



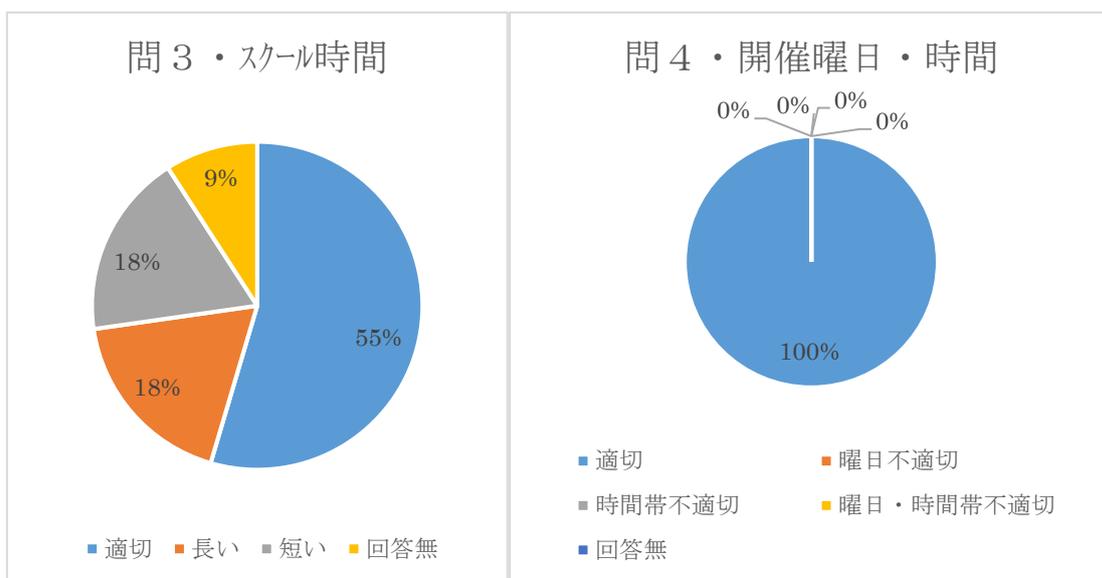
【自由記入欄回答】

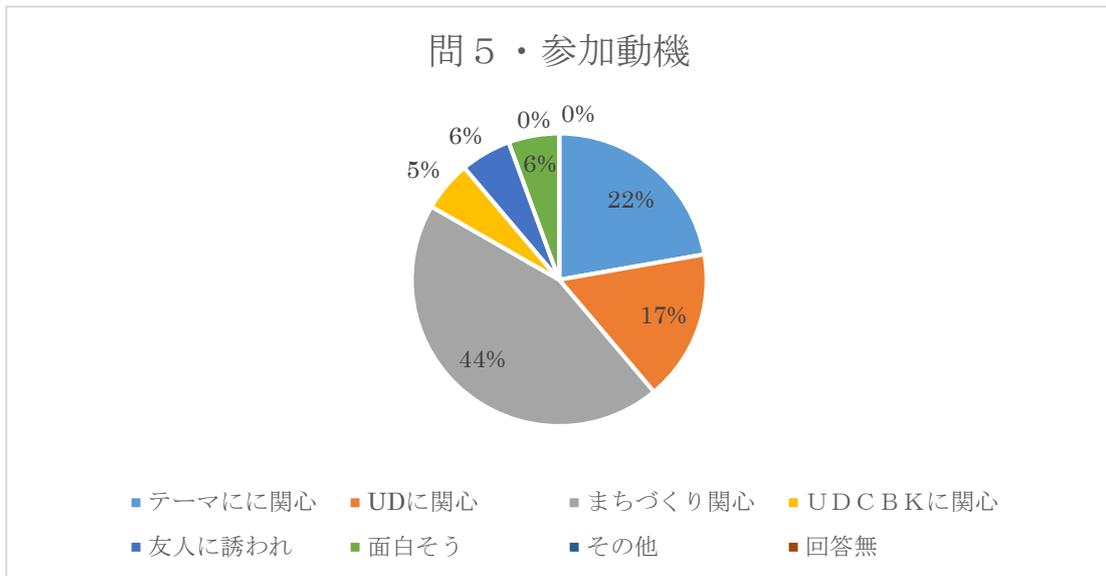
問3. 時間はどうでしたか。

- ・1回のスクールで2つのテーマでなく、1つのテーマ（50代男性）

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

回答なし





【自由記入欄回答】

問 5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・緑地と都市の共存（10代男性）
- ・リノベト”既存不適格”問題解消の両立（40代男性）
- ・フィールドワークしましょう！！みんなで（40代女性）
- ・官民連携のまちづくり（50代男性）
- ・オープンスペースの活用（20代男性）
- ・空地进行街畑プロジェクトなどをヒントにガーデンシティくさつで街花プロジェクトやアゲハチョウが街中を舞う。宿場町アゲハ街道（de愛ひろばでは実行中）プロジェクトなどいろいろ考えられる（50代男性）

【自由記入欄回答】

問 6. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・空き地の利用は短期間のスパンで行い、1人ひとりの活動から地域の活動が発展していくことが大事なんだと知ることができた（20代男性）
- ・空き家の仲介業をやって、個から全体に発展させていくのを知って地道なことが大切であると感じた（10代男性）
- ・まちなか防災空地として非課税で使用し、ベンチや草花などを置くこともできる空間利用し、前回の3㎡からはじめるまちづくりのベンチを置くこともできる。丸山の事業と共に期間を決めることが活動しやすいキッカケになることが今後の活動のヒントになる。コミュニティ・ベネフィットやアルベルゴ・ディフーズなどの考え方が参考になった（50代男性）